



# 南小だより

E-mail kogenminami@ac.city.myoko.niigata.jp

## 〈教育目標〉

進んで学ぶ子

思いやりのある子

最後までやりぬく子

〒949-2112 妙高市関川1592

TEL: 0255-86-2104

FAX: 0255-86-3212

## 1人の子ども、1人の教師、1冊の本、1本のペン が世界を変える

“One child, one teacher, one book and one pen can change the world.”

校長 渡辺 伸一

昨年10月に絵本『マララの物語』（わたしは学校で学びたい）が妙高高原南小学校に入りました。その絵本の裏表紙には標記の言葉が書かれています。

マララさんが住んでいたパキスタンはタリバンが暴力的な支配をしていました。「女の子は学校に通ってはいけない。女はみんなブルカを身に付けろ。男はひげを剃ってはならない。映画は禁止・・・。逆らえば・・・」と脅されました。でも、マララさんは勉強をやめませんでした。平和を願い、いろいろな場で訴えたのです。そのために15歳の時、学校帰りに銃で撃たれます。何度も手術を繰り返し、奇跡的に助かりました。16歳の時、国連でスピーチをすることになりました。その時の最後の言葉が標記の「1人の子ども、1人の教師、1本のペン、そして一冊の本、それが世界を変えるのです」なのです。

このスピーチの続きがもう少しあるので紹介します。それは、「教育こそが、ただ一つの解決策なのです。教育を第一に。ありがとうございました」です。

日本ではあたりまえの教育ですが、世界ではまだまだたくさんの小学生や中学生が学校で学ぶことができない状況にあります。命をかけて学ぶことを続け、訴えたマララさんの勇気と強さに感動の拍手が鳴り止まなかったそうです。スピーチの中には「知識という武器を装備し、連帯と団結という盾で身を守ろう」という言葉もありました。人は本を読み学ぶことで強くなる。互いに尊重し、支え合い助け合うことで絆が強くなるのです。

教育は未来への道標であり、教育が未来を築くのです。私たちはいつでも勉強できる環境にあります。子どもたちには、もっと時間を大切にしてくださいとたくさん学んで欲しいと思います。それは、必ず未来につながるからです。

「なぜ勉強しなくてはいけないの？」と迷った時、マララさんの言葉を思い出し、1冊の本と1本のペンを手に取ってほしいと願っています。



# 学校評価アンケート結果を受けて

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。保護者の皆様のアンケートを1回目と比較して、お知らせいたします。

全17項目のうち、10項目において肯定的評価が増えました。学習面では、子どもたちの家庭学習の習慣が、生活面では、よりよいコミュニケーションの力が身に付いてきたことが分かりました。これも保護者の皆様のご協力のおかげと感謝しています。

しかし、下記の7項目については、肯定的評価が前回を下回りました。学習内容の理解については、3学期の学習を行いながら復習や個別指導を行い、学習を進めてきました。また、学習の準備やあいさつなど、基本的なことからについては、子どもたち自身が大切さや必要性を感じ、進んでできるように工夫して指導しています。保護者の皆様からも、連絡帳や家庭学習ノートを見て、子どもたちに声をかけていただければと思います。健康・体力向上について、3学期は地域の特色でもあるスキーを中心に進めてきました。子どもたちも一生懸命に取り組み、成果を上げることができました。皆様から多大なるご協力いただきました。本当にありがとうございました。

(%)

アンケート項目		肯定	否定
学習	お子さんは、学校の学習内容を理解している。	94.9	5.1
学習	お子さんは、前の日のうちに学習道具の準備などをして、忘れ物をしないようにしている。	76.0	26.0
学習	(あなたは)連絡帳<1・2年生>や家庭学習ノート<3年生以上>を見てサインをしたり、子どもに励ましの言葉を書いたりしている。	72.6	27.4
生活	お子さんは、家族や地域の人に、あいさつをしている。	87.7	12.3
体力	お子さんは、健康、体力づくりについてめあてをもって生活している。	87.7	12.3
体力	お子さんは、進んで運動やスポーツをしたり、体を動かして遊んだりしている	89.0	11.0
学校	学校は、子どもの学習や生活等について、気軽に相談できる雰囲気である。	94.5	5.5